

船の事故	発生日	発生県	船舶種類	事故形態
	9月18日(日)	大分県	その他	浸水
	9月19日(月)	大分県	その他	運航不能
	9月19日(月)	大分県	その他	運航不能
	9月19日(月)	大分県	作業船	浸水
	9月19日(月)	大分県	作業船	浸水
	9月19日(月)	大分県	漁船	浸水
	9月19日(月)	佐賀県	プレジャーボート	浸水
	9月19日(月)	大分県	漁船	運航不能
	9月20日(火)	大分県	漁船	浸水
	9月20日(火)	大分県	プレジャーボート	浸水
	9月20日(火)	大分県	プレジャーボート	運航不能
	9月20日(火)	大分県	プレジャーボート	運航不能
9月20日(火)	大分県	プレジャーボート	運航不能	
9月20日(火)	福岡県	作業船	転覆	

人の事故	発生日	発生県	事故区分	事故内容
	9月18日(日)	長崎県	船舶海難によらない乗船者の人身海難	負傷
	9月18日(日)	長崎県	船舶海難によらない乗船者の人身海難	負傷

## 台風による浸水・船舶流出 海難等多数発生！

【問合せ先】

第七管区海上保安本部交通部 安全対策課長 古場  
安全対策調整官 川部  
TEL：093-321-2931（内線2640）

### 【事事故例】

事故船舶の所有者は、台風14号が接近していたが、台風11号の際には、係留状態に何ら問題がなかったことから、今回も安全な場所へ避泊等せず大丈夫だろうと、棧橋に船首尾から各二本ずつ、船首から岸壁に1本の計5本のロープを取った。

令和4年9月18日16:00頃、係留地付近に住む所有者の友人が、かなりの強風であったことから事故船舶の状況が心配になり確認したところ、風の影響で岸壁と船首をつないでいたロープ以外は全て破断してしまい、事故船舶は大きく振り回り岸壁に何度も衝突しながら、船内に波が打ち込んでいる状態であった。友人は直ぐに所有者に連絡し、所有者も状況を確認したが、海上荒天でどうすることも出来なかったため、118番通報したものの、その後、波の打ち込みにより転覆した。

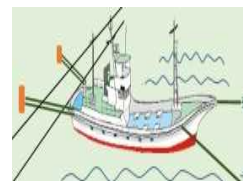


台風14号の影響により事事故例を含め、第七管区内だけで浸水7件、無人漂流(係留不備)6件、転覆1件、負傷事故2件の計15件と多数の海難事故が発生しました。また、牡蠣いかだや浮棧橋の漂流等も多数発生し、台風14号による被害は大きいものとなりました  
同じような被害が出ないように以下の事を気を付けましょう。

### ●事故防止対策

#### ・係留状態の点検・強化

定期的に係留ロープの傷みがないか、係船具が損傷していないか等、係留状態の点検をしましょう。また、荒天が予想される際は、係留状態の異常の確認だけでなく、増しめや防舷物の追加等、係留状態の強化を行いましょう。荒天により風潮流の影響を大きく受けそうな場合は、影響の少ない場所へ移動させるか、安全な場所への陸揚げ保管を検討しましょう。



沈没したプレジャーボート



#### ・排水溝、開口部の確認

荒天となる前に、船内の排水溝に詰まりが無いかを確認し、あれば、詰まりを解消しておきましょう。また、船倉等の開口部の確実な閉鎖を実施しましょう。

#### ・船舶以外の流出にも注意

岸壁付近に陸揚げ保管されているカヌー、SUP(スタンドアップパドルボード)、手漕ぎボートや岸壁付近に置いてある漁具や資材等にあっても、荒天が予想される場合は、必ず保管状況を確認し、必要であれば、流出防止措置を講じましょう。

流出したカヌー



船舶等の流出海難は、時に衝突や乗揚等、甚大な二次海難につながる可能性があります。また、航路障害物となり、他の経済活動を止めてしまうケースもありますので日頃から係留状況及び気象海象の確認を心掛けましょう。

最新の気象・海象については、右の二次元コード(海の安全情報)をご覧ください。  
<https://www6.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/kisyuu.html>

